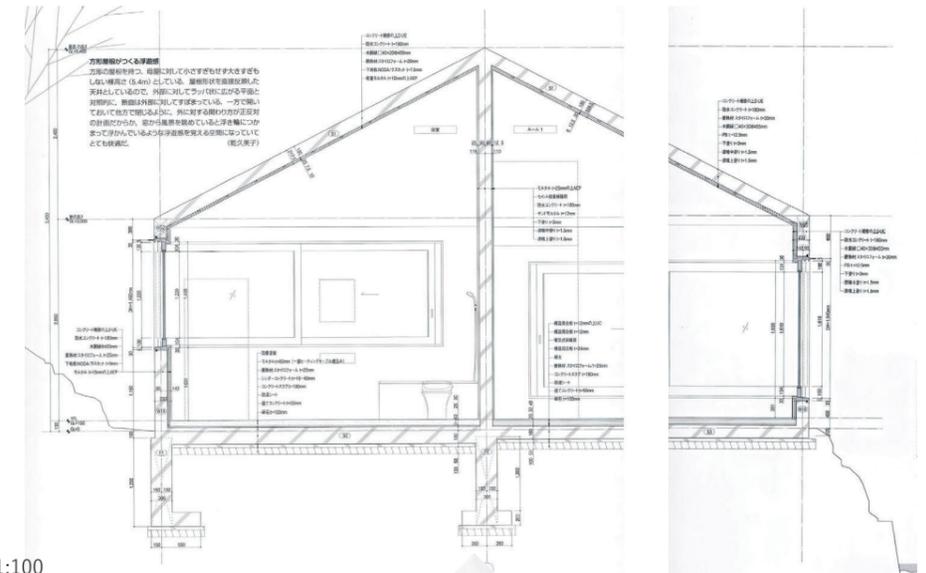
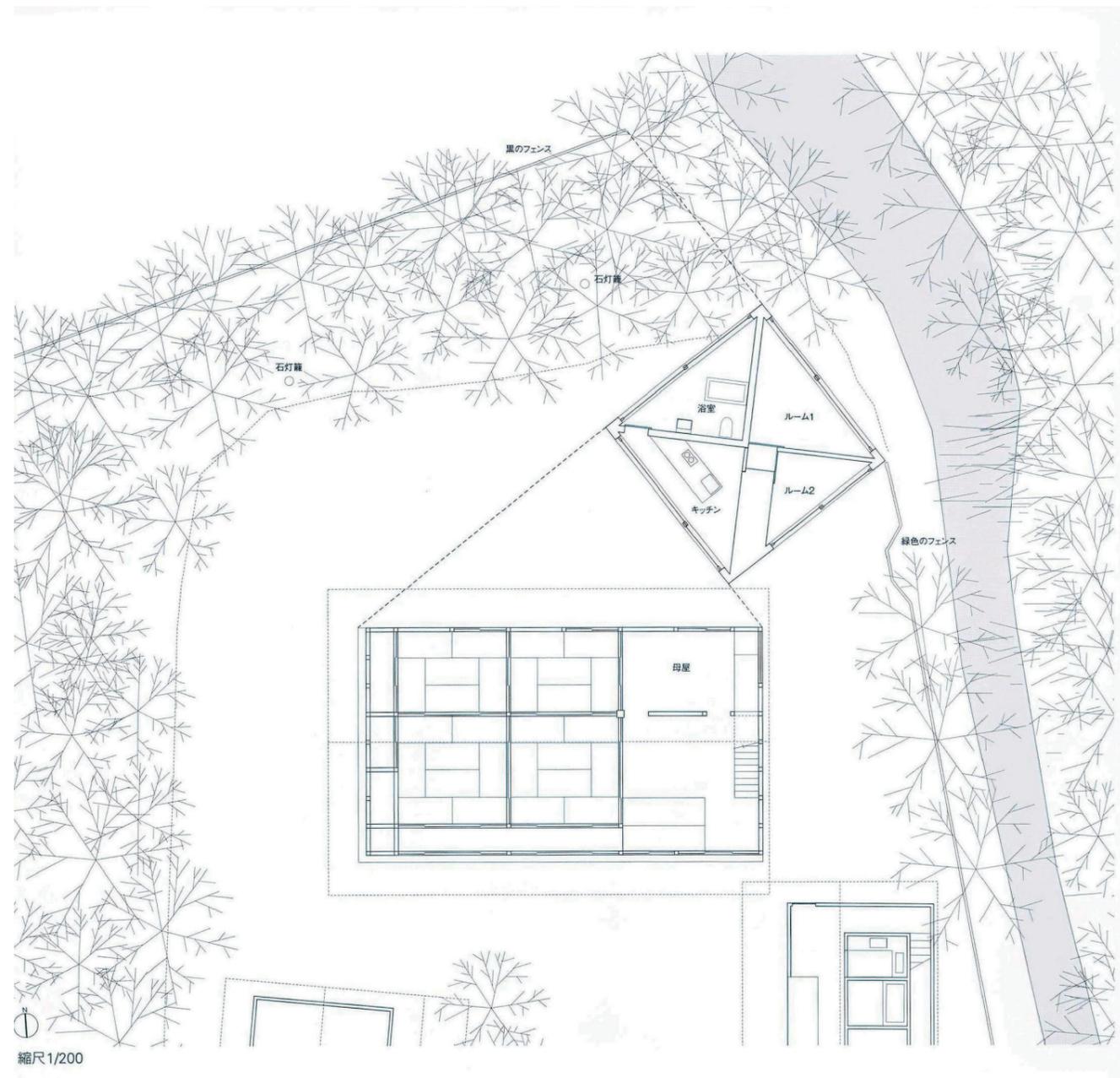
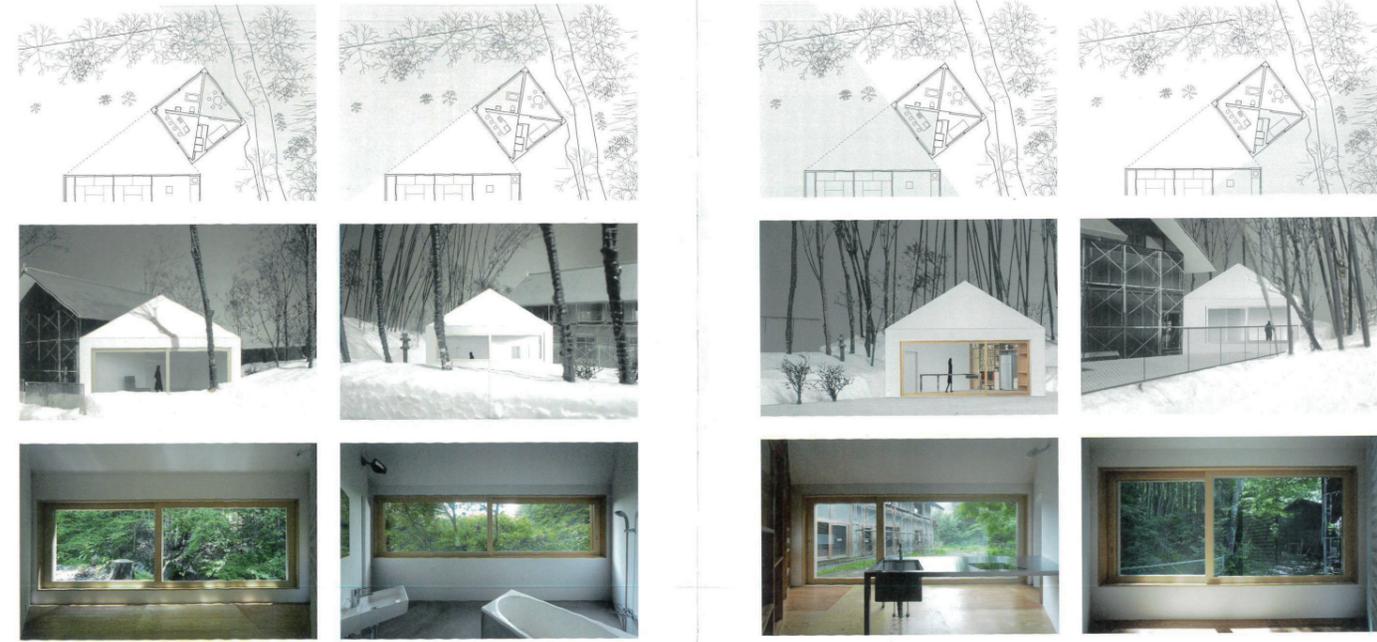
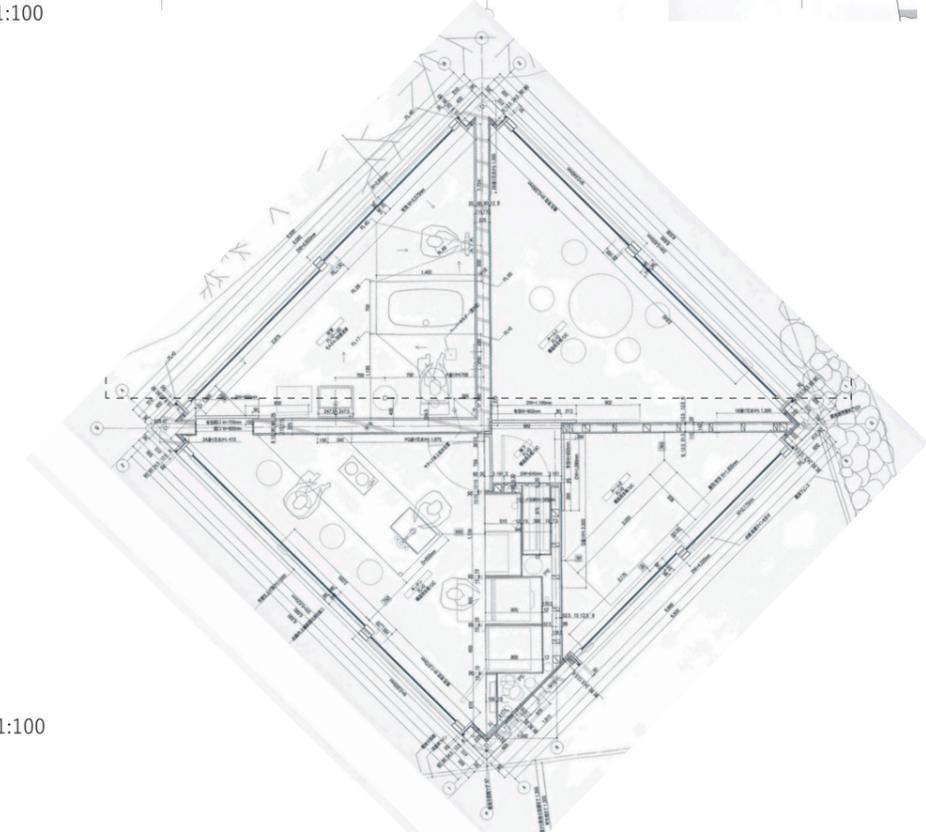


スモールハウス H 乾久美子, 2009

榛名山の麓にたてられた小屋である。既存の古い農家の裏庭にあたる敷地であり、求められた機能は、自宅でも別荘でもなく、ゲストハウスのようなもの。周辺の風景は、奥の母屋（木目調のトタン）、緑色のフェンス（途中で途切れる）、黒いフェンス（崩壊寸前）と手前に石灯籠（意味不明な配置）といった要素が無関係に存在し、田舎の中途半端さを演出してしまっていた。それらの風景を4つに方形の建物で分類している。風景の変化点にそって、正方形の角度が決定されており、対角線で内部を区切ることで、風景に明確な特徴をつけている。



断面 1:100



平面 1:100